



## 日本一の老人ホームを訪ねて⑯

私たちがつい忘れがちになる、「心の大切さ」「元気な生活」との繋がりを教えていただきたい。そんな気持ちから始めた、全国の老健施設訪問。やさしい笑顔に毎回パワーをいただいています。

古賀良太(アサヒ緑健社長)  
泉田照雄(本誌編集長)



介護予防にも取り組んでいます。



野菜はあつという間に完売。



朝市を心待ちにしている地域の方が大勢います。



利用者も朝市を楽しんでいます。



「朝市で顔なじみになりました」。



近所の保育園の園児がお手伝い。



「カボチャ買ってきてね」。

# 北海道の大地でとれたて野菜の朝市! 地域を元氣にする老人ホーム

北海道上川郡鷹栖町にある地域安心拠点「ぬくもりの家・えん」は、介護サービスを提供するとともに、地域住民と協力してさまざまな地域交流活動を行っています。なかでも地元の新鮮野菜を販売する朝市は、7月～9月の毎週土曜日に開かれている人気イベント。多くの人にぎわいます。朝市を行っている現地を訪ねました。

北海道上川郡鷹栖町  
社会福祉法人さつき会 地域安心拠点 ぬくもりの家 えん

施設開設の三年前から、  
住民との協働作業を開始

北海道鷹栖町にある地域安心拠点「ぬくもりの家・えん」では、介護サービスを提供する一方で、地域住民との交流活動を活発に行っています。その取り組みは、北海道で最も充実していると言われています。平成二年五月にオープンしました。

「住民との交流活動を通して、地域の人々に親しまれる施設、地域の人が使いやすい施設、地域の人々が協力してくれる施設を作りました。私たちサービス提供事業者と住民が力を合わせ、えんを運営することで、地域全体で老いを支える町ができるんじゃないかと考えました」

えんでは、施設開設の三年前から、地域住民と一緒に勉強会や先進施設の視察などを行いました。

えんを運営する、波濤幸敏施設長はこう説明します。

「利用者の交流活動を通して、地域の人に親しまれる施設、地域の人々が使いやすい施設、地域の人々が協力してくれる施設を作りました。私たちサービス提供事業者と住民が力を合わせ、えんを運営することで、地域全体で老いを支える町ができるんじゃないかと考えました」

その結果、えんを支える地域住民の会「ぬくもり友の会」が発足。五〇名のメンバーがさまざまな活動を行っています。毎週火曜日開催の「コーヒー茶ろん・てくてく」、月に数回開かれる「麻雀サロン」、年三～四回開かれる「老いと介護を学び考える勉強会」、「ぬくもり友の会と介護スタッフの交流会」などです。えんの花壇は、友の会のメンバーが苗や球根を提供し、施設の入居者と一緒に植え付けを行います。菜園も土づくりから畑の手入れまで丁寧に教えてくれました。施設開設以来、友の会はますます精力的に活動しています。

友の会のメンバー、澤口隆さんはこう話します。

「友の会の目的は、まずは仲間づくりです。ボランティアは時間があればればいいんです。無理をしないことが、長続きのコツですね」





地域の子どもたちもとれたての野菜を販売。えんは多世代交流の拠点にもなっています。

「朝市・てくてく」のメンバーのみなさん。

「お久しぶりですね。お元気でし  
物に訪れます。  
朝市には、ホームの入居者も買い  
いきました。また、えんの菜園で収穫  
された枝豆も完売でした。  
地元でとれた新鮮野菜はほとんど  
声が会場にひびきます。

「朝市・てくてく」のメンバーの  
声  
「朝市がおいしいですよ～」  
「トウモロコシは朝、とつてきた  
ばかりですよ～」

枝豆がおいしいですよ～」  
「トウモロコシは朝、とつてきた  
ばかりですよ～」

「朝市・てくてく」は七月～九月  
の毎週土曜日に開かれます。夏のあ  
いだの人気イベントで、多くの人で  
にぎわいます。

「枝豆がおいしいですよ～」  
「トウモロコシは朝、とつてきた  
ばかりですよ～」

### 地元の野菜で 地域住民が集う朝市を開催

「元気ですよ～、今日は友達をつ  
れてきたの」

「朝市を開くことで、地域住民の  
ホーマンの入居者と地域の方のおし  
やべりの輪が、あつという間に広が  
っていきます。

「朝市を開くことで、地域住民の  
方たちが施設に足を運んでくれ、入  
居者と地域住民の交流の場になるん  
ですね。朝市やサロンは、入居者に  
とって暮らしのうるおいになります  
し、地域住民にとっても新たな交流  
が生まれる場となります。地域住民  
のみなさん、ぬくもり友の会と施設  
が力を合わせることで、入居者の暮  
らしも地域住民の方の暮らしも、地  
域に根ざしたより豊かなものになる  
と考えています」と波瀬施設長。

小規模な介護施設は日本各地ででき  
ていますが、「ぬくもりの家・えん」  
のように、地域住民と強い協力関係、  
信頼関係が築けているところはなか  
ないのではないでしょうか。住民の方たちと施設スタッフ双方が、「ぬく  
もりの家・えん」を地域の交流拠点と  
して大切に育てようという、あたたか  
なハートを感じました。

しかも、みなさんが楽しそうに活動  
しているのが印象的でした。取材中、  
施設の中を歩いていると、楽しそうな  
話し声があちこちで聞こえました。お  
年寄りも地域の方も施設のスタッフも  
笑顔でした。

このような地域に開かれた施設が、  
中学校区につくらいいあると、老後に  
ついての不安がずいぶん解消されるの  
ではないかと思いました。日本の高齢  
者介護の未来を見せていただいたよう  
な気がします。

(古賀良太)



「ぬくもりのある家庭のような環境で過ごしてほしいという思いが込められています」。



利用者は笑顔で生活しています。



リビングには、地域の絵画会が絵を展示してくれています。



左から波瀬幸敏施設長、アサヒ緑健社長古賀良太、武山砂織係長、谷本政美介護部長。



小さな施設を支える  
大きな住民パワーに  
心打たれました